

第二次柳川市観光振興計画
概要版

2019
～
2028



福岡県柳川市

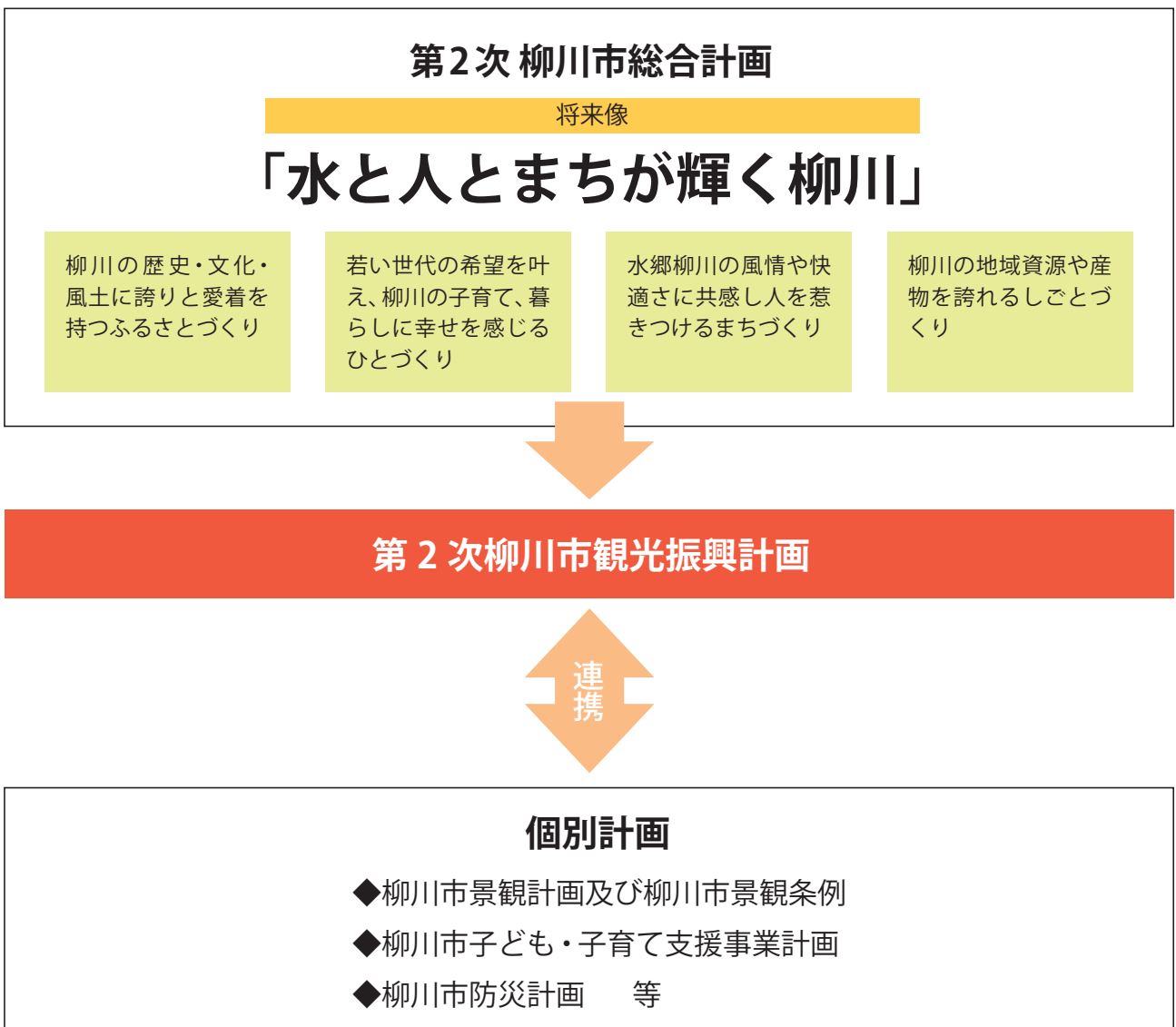
二〇一九年三月

1. 策定の趣旨と位置づけ

- ◆国の「観光立国の実現」に向けた各種施策の実施や国が進める「地方創生」「日本版DMO」の推進等を好機と捉えるとともに、第1次柳川市観光振興計画の評価や市民の声を基礎データとして、観光による交流人口の増加、地域のにぎわい創出を目的とする。
- ◆本計画では「掘割や歴史・自然・文化・生活・食」という本市が誇る地域のすばらしさを市民が実感し、国内外の観光客の皆さんをもてなす、柳川らしい観光の姿を目指す。



上位計画である第2次柳川市総合計画の「水と人とまちが輝く 柳川」という将来像を実現するため、具体的な観光施策を立案し、観光によるまちづくりを進める。



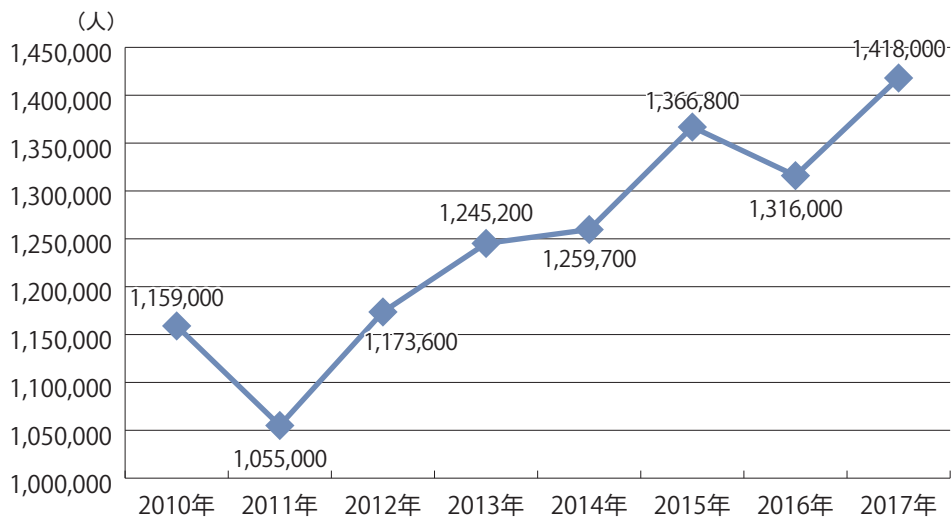
1. 全国的な観光の動向

- ◆国による「観光立国宣言」が行われ、ビジット・ジャパン・キャンペーンやそれに次ぐ観光立国推進基本法の制定など、観光の産業化による地域経済の活性化を積極的に推進している。
- ◆2019年のラグビーワールドカップ日本大会や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、現在では2020年に4,000万人、2030年には6,000万人という目標を掲げている。

2. 本市の観光の動向

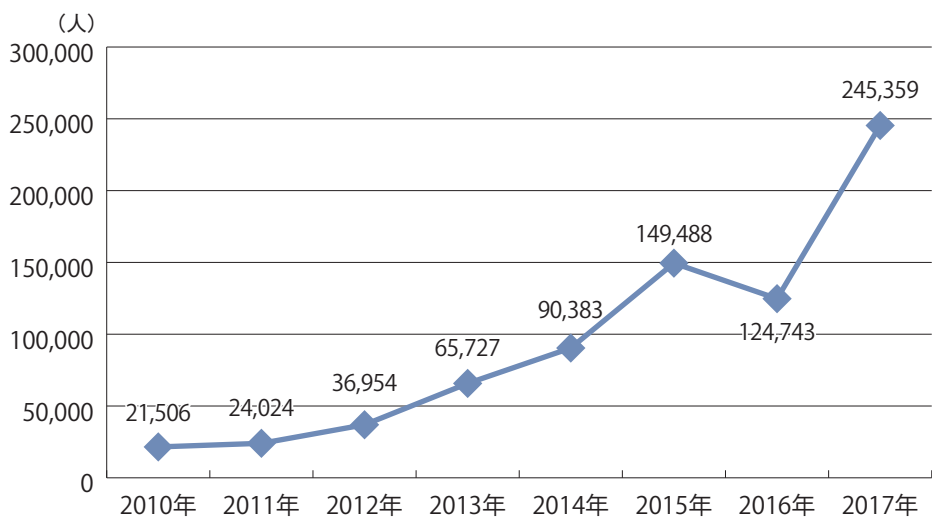
- ◆観光入込客数は、合併後から2017年までに約215,000人増加している。2011年の東日本大震災や、2016年の熊本地震の影響を受け、それらの年の入込客数は大幅に落ち込んだが、外国人観光客が増加したことにより本市において過去最高の入込客数を更新している。

観光入込客の推移



「2017年柳川市観光動態調査」より引用

外国人観光客の推移



「2017年柳川市観光動態調査」より引用

1. 第1次観光振興計画の取り組みと評価

- ◆柳川らしさの育成・発展…官民連携による掘割清掃、食の商品開発、両開地区、西鉄柳川駅周辺のハード整備などを実施。
- ◆全域・市民による観光まちづくり…「水郷柳川ゆるり旅」実施。「柳川観光第2のエンジン事業」スタート。地域力向上を目指した事業を実施。
- ◆観光情報システムの構築…誘致・プロモーションに注力。
- ◆国際観光の振興…国、県等との連携を強化。インフルエンサー受入れによる市の魅力発信など。

2. 課題

第1次観光振興計画の取り組みに関して、観光まちづくり推進委員会の意見や外部環境の変化が加わり5つの課題が明確となった。

- ◆課題に共通するのは、一部の観光関連事業者だけでは解決できない、市や市民全体に関わる課題であるということ。
- ◆第1次観光振興計画でテーマとされた「地域力」の発揮が改めて問われている。

課題と解決方策

①インバウンド観光の受入れ整備

今後受入れを強化するべき訪日外国人に対応する仕組みやハード・ソフトの整備を進める必要がある。

②観光コンテンツの再構築

現状の観光コンテンツを見直し、再編集による質の向上が必要。観光消費額増を目指す。

③市民参加による観光まちづくり

市民が参画する観光まちづくりの機会創出や、地域としての価値創造による地域力が求められる。

④将来の社会変化への視点

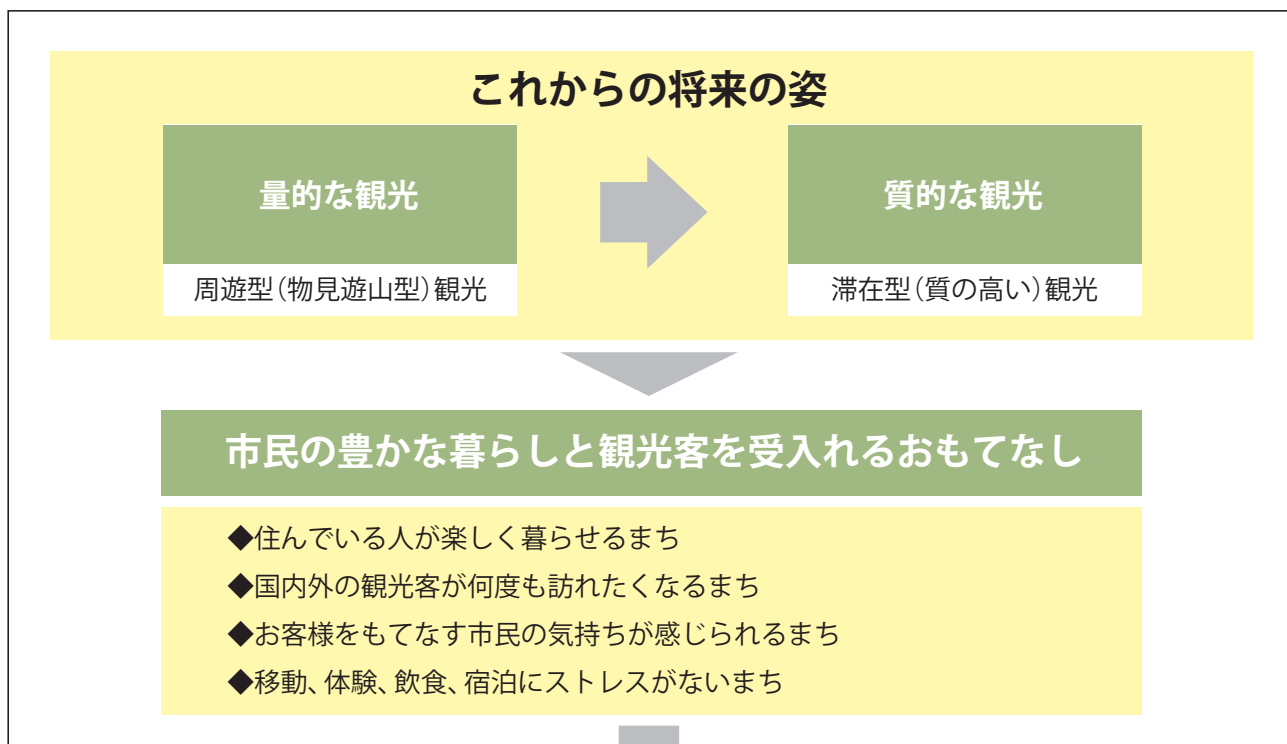
計画策定には社会と市の10年後を想定した視点が重要で、激しく変化する社会システムと市の環境変化への対応が考慮されるべきである。

⑤観光プラットフォーム(仮称)の構築

多くの施策が打たれてきたが、市の対象エリアや実施主体が単独であるため、事業効果が限定的である。マーケティング機能を持つ観光プラットフォーム(仮称)が必要である。

1. 将来の姿とその実現に向けた考え方

- ◆本計画が目指すのはこれまでの数を頼む観光ではなく、質の高い観光の姿。つまり、これからの観光に求められる滞在型の観光であり、柳川市民がもともと持っている質の高い、豊かな暮らしに根ざした観光によるまちづくりの姿であること。
- ◆「市民の豊かな暮らしと観光客を受入れるおもてなし」を実現するべき将来の姿として掲げる。



柳川観光の新しい価値の創造

暮らしの中の
観光の具体化

＜基本理念＞

市民みんなで作る交流力

「交流力」とは…

エリア、世代を超えた相互理解の力
地域の宝を知ることによって生まれる地元愛の力
観光客を受入れるコミュニケーションの力

2. 成果指標 (KPI)

- ◆観光入込み客数については、約165万人を目指す。
- ◆外国人観光客数については、約50万人を目指す。
- ◆観光消費額については、約90億円を目指す。

	2008 (H20)	2010 (H22)	2013 (H25)	2018 (H30) ※実績値は H29調査結果
入込み観光客数	117.1万人	115万人 115.9万人	130万人 124.5万人(前年比6%)	150万人 141.8万人
外国人観光客数	未調査	10万人 2.2万人	14万人 6.6万人(前年比78.4%)	18万人 24.5万人
観光消費額	48億円	49億円 46.9億円	58.5億 48.6億円(前年比7%)	75億円 67.7億円
観光消費額(1人当たり)	4,100円	4,300円 4,046円	4,500円 3,900円	5,000円 4,770円
延べ宿泊人数(約)	52,000人	42,000人	42,000人 (宿泊率3.4%)	81,000人
リピート率			55.8% 福岡県内の75.8%がリピーター 九州外の61%がリピーター	

2020	2023	2025	2028
150万人	155万人	160万人	165万人
30万人	35万人	40万人	50万人
75億	80億	85億	90億
5,000円	5,100円	5,300円	5,500円
85,000人	90,000人	95,000人	100,000人
62%	65%	67%	70%

満足度(%)	2008 (H20) 調査結果	2010 (H22) ※実績値は H23調査結果	2013 (H25) ※()H23対比	2018 (H30) ※赤字H29
食事	59.2	60 67.8%	65 79.2%(11.4%増)	70 85.0
みやげ品	37.2	40 25.8%	45 49.1%(23.3%増)	50 65.7
観光施設とその内容	42.6	45 51.6%	50 61.3%(9.7%増)	55 70.3
当地までの案内看板等の整備状況	36.4	40 34.2%	45 48.9%(14.7%増)	50 63.0
市内での移動	37.3	40 35.7%	45 44.3%(8.6%増)	50 62.4
観光施設、街の人たちのおもてなし	54.2	55 58.8%	60 67.4%(8.6%増)	65 77.0
市内での観光情報	35	40 34.7%	45 49.5%(14.8%増)	50 64.1
旅行全体	62.1	65 67.5%	70 74.5%(7%増)	80 78.2

2020	2023	2025	2028
86	87	89	90
70	72	75	78
72	75	78	81
65	67	69	70
63	65	67	70
79	82	84	87
65	68	72	75
80	82	84	87

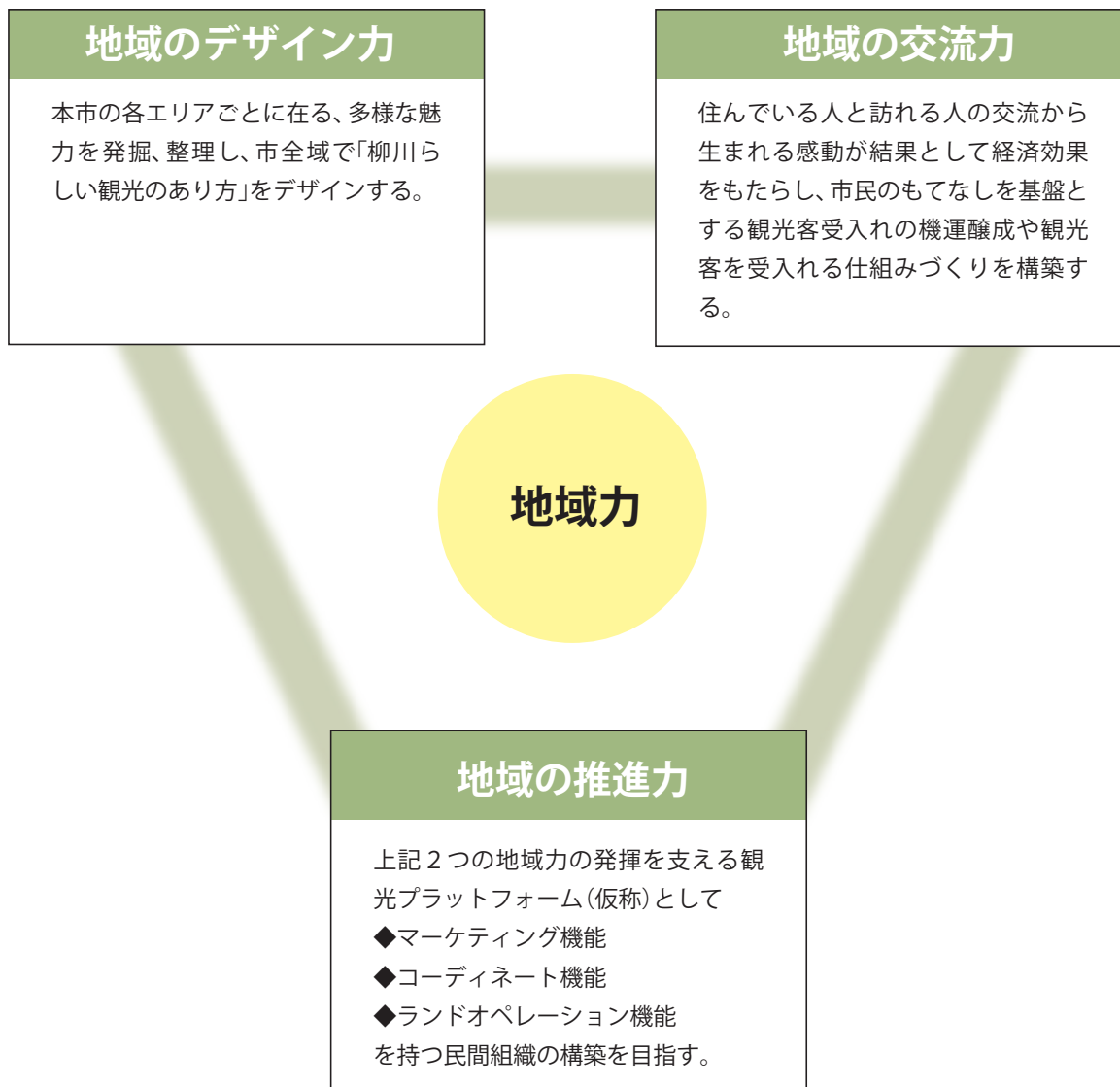
※赤字は実績値

<指標設定の考え方>

- 国内人口の減少が予測される中、本計画のKPIで影響が大きく、重要項目となるのが外国人観光客数である。「リピート率」「満足度」を除く指標は、外国人観光客増加に比例して設定している。
 - ①訪日外国人………2015年の2,011万人から2018年約3,000万人へ 約1.5倍
 - ②福岡県への訪日外国人…2014年121万人から2017年318万人 約2.6倍
 - ③本市への訪日外国人………2013年6.6万人から2018年24.5万人 約3.7倍
 これらのデータと今後の国レベルでの観光政策を考慮し、2018年比、倍増の50万人と設定した。
- 「リピート率」「満足度」は定性的な指標である。本計画の基本理念である「市民みんなで作る交流力」を実現するためのプロジェクト実施によって向上を目指す。リピート率70%、満足度87%は非常に高いレベルの設定である。

3. 施策の構造(3本の柱)

本計画の基本理念「市民みんなでつくる交流力」に基づいて、3つの「地域力」を柱として構成。



- ◆異業種間や各種団体間の連携、調整を行い、観光事業者等が実施する観光振興に関する取り組みをサポートし、本市の観光を支えるプレイヤー(実践者)としての機能。
- ◆本市の観光情報発信の中心的役割を担うとともに、先進的な情報の収集と提供を行い、本市の観光振興のエンジンとしての機能。

基本方針

地域のデザイン力

基本方針1：柳川観光のブランドをデザイン

- 施策①柳川市のエリアごとの資源をデザイン
- 施策②川下り観光の在り方についての検討
- 施策③柳川ブランドの継続実施による物産の充実
- 施策④矢部川、筑後川、有明海を結んだ、柳川の歴史と文化の再検証とコンテンツ化

基本方針2：柳川観光の多様な魅力をデザイン

- 施策⑤エリアごとの体験メニューの充実による、食、文化、スポーツ、お酒などのニューツーリズムの促進
- 施策⑥朝観光、夜観光など滞在時間を延ばすための取り組み強化
- 施策⑦映画やドラマなどの撮影誘致の継続実施
- 施策⑧周辺自治体(有明海沿岸部・筑後地域等)との連携強化

基本方針3：国内・海外からの観光客の誘客の仕組みをデザイン

- 施策⑨観光客の多様なニーズに沿った観光モデルの構築
- 施策⑩海外誘客の戦略の策定
- 施策⑪福岡県、福岡市、九州運輸局、九州観光推進機構等との連携による誘客の促進及び情報発信

地域の交流力

基本方針4：受入れ意識の醸成

- 施策⑫市民や子どもが、歴史伝統、文化などの柳川の魅力に触れる機会の創出
- 施策⑬観光客をあたたかく迎える市民協働の取り組みの推進
- 施策⑭観光を基軸とした、中小企業や商店街、商工・農漁業の地場産業との協働

基本方針5：国内・海外からの観光客の受入れの仕組みづくり

- 施策⑮多様なガイドの仕組みの構築
- 施策⑯外国人受入れ環境の整備(言語対応、非言語対応)

基本方針6：受入れ環境の整備

- 施策⑰観光交流拠点の充実
- 施策⑱まちなみ景観、自然景観などの魅力の保全、活用の創造
- 施策⑲二次交通 交通ネットワークの充実
- 施策⑳観光ICTの積極的な導入
- 施策㉑防災(避難誘導)計画の検討

地域の推進力

基本方針7：観光まちづくりを推進する組織の構築

- 施策㉒観光プラットフォーム(仮称)構築および手順の明確化

基本方針8：稼げる観光産業のマネジメント

- 施策㉓観光プラットフォーム(仮称)の運営

プロジェクト

基本方針1 柳川観光のブランドをデザイン

プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
①柳川市のエリアごとの資源をデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ごとの資源の整理 ◆ブロックごとのエリアビジョンの設定 ◆地域横断の観光と交流のメニューづくり ◆既存の情報ツールの見直し 	◆情報ツールの充実に向けた整備	◆地域横断による観光と交流イベント(誘客キャンペーン)の実施
②川下り観光の在り方についての検討	<ul style="list-style-type: none"> ◆川下りの名称の統一 ◆川下り市民シンポジウムの開催 ◆川下りマップの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ◆川下りを起点とした体験メニューの開発 ◆多様な船頭体験の実施 ◆柳川の掘割についての意識醸成 	◆デジタルIT化について協議と導入
③柳川ブランドの継続実施による物産の充実	◆国内に向けた販路拡大事業	◆海外に向けた販路拡大事業	
④矢部川、筑後川、有明海を結んだ、柳川の歴史と文化の再検証とコンテンツ化	<ul style="list-style-type: none"> ◆編集会議の開催 ◆取材及び製作 ◆市域内への発信 	◆第二弾の発行	◆第三弾の発行

基本方針2 柳川観光の多様な魅力をデザイン

プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
⑤エリアごとの体験メニューの充実による、食、文化、スポーツ、お酒などのニューツーリズムの促進	<ul style="list-style-type: none"> ◆水郷柳川ゆるり旅の継続実施 ◆新たな体験メニューの構築 ◆多様な体験メニューの構築 	◆プレミアム版水郷柳川ゆるり旅の実施	◆成果と課題を整理し、水郷柳川ゆるり旅のブラッシュアップを図る
⑥朝観光、夜観光など滞在時間を延ばすための取り組み強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆朝観光のコンテンツ化 ◆夜型観光のコンテンツ化 	◆水郷柳川ゆるり旅への組み込み	◆成果と課題を整理し、コンテンツのブラッシュアップを図る
⑦映画やドラマなどの撮影誘致の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ◆撮影誘致の継続実施 ◆NHK大河ドラマの招致 	→ →	
⑧周辺自治体(有明海沿岸部・筑後地域等)との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆連携先ごとに対応した、柳川のコンテンツの整備 ◆連携による誘客展開の共同実施 	◆共同のセールスプロモーション	◆新たな広域観光圏の形成

基本方針3 国内・海外からの観光客の誘客の仕組みをデザイン

プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
⑨観光客の多様なニーズに沿った観光モデルの構築	<ul style="list-style-type: none"> ◆時間軸を基にした観光モデルの形成 ◆交通機関を基にした観光モデルの形成 	◆整備されたコンテンツを基にした誘客ターゲットの設定	◆観光モデル、ターゲットの見直し
⑩海外誘客の戦略の策定	<ul style="list-style-type: none"> ◆ターゲット国ごとのニーズの把握 ◆観光コンテンツの選択 ◆誘客テーマの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報ツール発信(印刷物、外国語HP)などの見直し ◆効果的な情報発信 	◆観光モデル、ターゲットの見直し
⑪福岡県、福岡市、九州運輸局、九州観光推進機構等との連携による誘客の促進及び情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ◆各連携事業の積極的参加 ◆情報ツールの整備と相互リンクの促進 ◆VJ事業への積極的参加 	◆市の立案によるVJ事業の実施	

基本方針4 受入れ意識の醸成

プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
⑫市民や子どもが、歴史伝統、文化などの柳川の魅力に触れる機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ◆勉強会の資料作成 ◆子ども版水郷柳川ゆるり旅の実施 ◆学校向け体験プログラムの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ◆勉強会の実施(市域内限定) ◆学校向け体験プログラムの実施 	◆勉強会の実施(市域外へ拡大)

⑬観光客をあたたかく迎える 市民協働の取り組みの推進	◆「おもてなし柳川」市民会議の継続実施 ◆水路清掃活動の継続実施 ◆産学官連携オープンセミナーの継続実施 ◆子ども版案内ガイドの仕組みの検討	→ → → ◆子ども版案内ガイドの実施	
⑭観光を基軸とした、中小企業や商店街、商工・農漁業の地場産業との協働	◆柳川産農水産品のブランド浸透 ◆ふるさと納税謝礼品の開発	◆柳川産農水産品の新グルメの開発 ◆柳川の食や物産品の集う場の創出 ◆開発商品の一般販売	

基本方針5 国内・海外からの観光客の受入れの仕組みづくり

プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
⑮多様なガイドの仕組みの構築	◆テーマごとのガイド養成講座 ◆柳川マイスターの養成	◆専門ガイドの登録の推進 ◆柳川案内人としての登録の推進	◆本市の体験コンテンツとして活用
⑯外国人受入れ環境の整備 (言語対応、非言語対応)	◆事例共有会の開催 ◆善意通訳案内のセミナーの実施	◆善意通訳案内人の登録	◆通訳案内士の育成

基本方針6 受入れ環境の整備

プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
⑰観光交流拠点の充実	◆観光交流拠点のネットワーク化	◆柳川らしい「観光交流拠点等」の在り方について検討 ◆都市圏等での情報発信	
⑱まちなみ景観、自然景観などの魅力の保全、活用の創造	◆景観計画及び景観条例の浸透 ◆古民家・空家の利活用促進のルールづくり	◆古民家/空家の活用促進事業の実施 ◆西鉄柳川駅周辺環境の魅力の保全	
⑲二次交通 交通ネットワークの充実	◆レンタサイクル事業の拡大(実証実験) ◆観光向け路線バスルート(既存)の整理とツール作成 ◆柳川らしい二次交通のあり方について検討	◆レンタサイクル事業の市域での実施 ◆路線バスの観光キャンペーンの実施 ◆水上交通などの柳川らしい二次交通の新たな導入	◆観光に特化した路線バスルートの開発
⑳観光ICTの積極的な導入	◆観光案内サイン等への多言語アナウンスの導入の検討 ◆キャッシュレス導入セミナーの実施	◆デジタル技術導入の検討 ◆キャッシュレス化の推進	
㉑防災(避難誘導)計画の検討	◆屋外における観光客の避難誘導計画の検討 ◆屋内における観光客の避難誘導計画の検討 ◆外国人向け避難誘導計画の検討		

基本方針7 観光まちづくりを推進する組織の構築

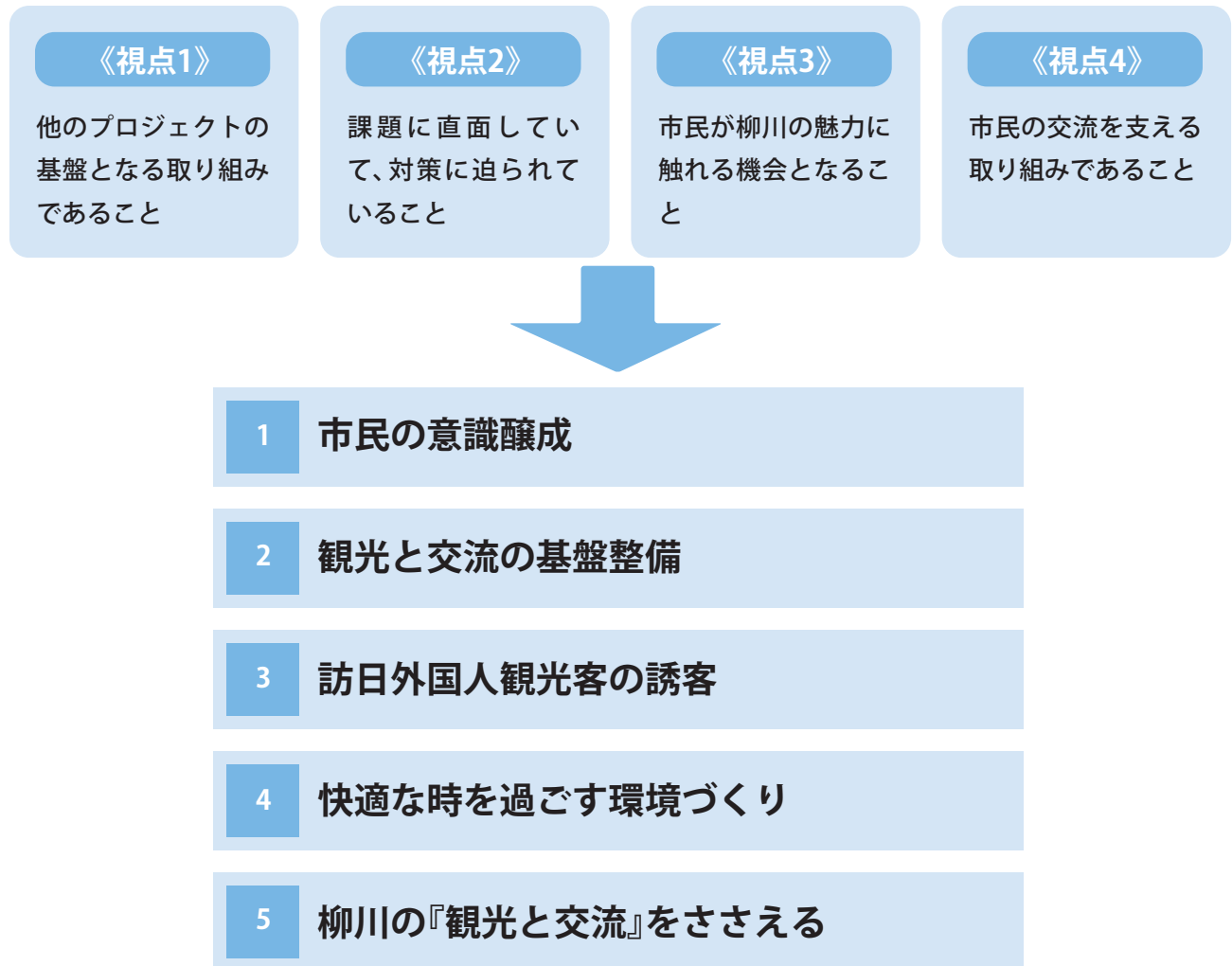
プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
㉒観光プラットフォーム(仮称)構築および手順の明確化	◆観光まちづくり推進委員会(仮称)の設置 ◆観光プラットフォーム(仮称)構築のロードマップ策定 ◆マーケティング計画の策定	◆観光まちづくり地域セミナーの実施 ◆必要な視察事業	

基本方針8 稼げる観光産業のマネジメント

プロジェクト	施策と活動計画		
	短期(2019年～2021年度)	中期(～2024年度)	長期(～2028年度)
㉓観光プラットフォーム(仮称)の運営	◆専任者の配置、人材育成 ◆ニーズの把握	◆観光事業者、市民、まちづくり団体、観光関係事業者等への支援等 ◆自立した組織運営	

優先プロジェクト

観光と交流によるまちづくりを推進し、成果目標を達成するために優先プロジェクトとして、次の視点から特に優先的に実施する。



①市民の意識醸成

観光関係者だけでなく、市民の方々が柳川の歴史や文化を知り、地元を愛することが観光と交流に対する意識の醸成に繋がる。

優先するプロジェクト

- プロジェクト(13)柳川水郷物語(仮称)の整備
- プロジェクト(22)NHK大河ドラマの招致
- プロジェクト(37)柳川を学ぶ機会の創出
- プロジェクト(38)子ども版水郷柳川ゆるり旅の実施
- プロジェクト(47)テーマごとのガイド養成講座の開催

②観光と交流の基盤整備

私たちが住む柳川とはどういうところか、川下りの魅力とは何か、それぞれの想いや視点を少しでも同じベクトルにし、共通認識を進めることで、効果的な観光によるまちづくりの実践に繋げる。

優先するプロジェクト

- プロジェクト(1)地域ごとの資源の整理(地域デザイン会議(仮称)の実施)
- プロジェクト(2)ブロックごとのエリアビジョンの設定
- プロジェクト(5)川下りの名称の統一
- プロジェクト(6)川下り市民シンポジウムの開催

③訪日外国人観光客の誘客

訪日外国人観光客に効果的な情報を発信し、誘客に繋げるためにそれぞれの国のニーズを把握し、ニーズにあわせたPRをすることで訪日外国人の入込み客増に繋げる。

優先するプロジェクト

- プロジェクト(29)ターゲット国ごとの訪日観光に対するニーズと情報入手方法などの把握
- プロジェクト(30)柳川市の観光コンテンツの選択と集中
- プロジェクト(31)ターゲット国ごとの旅のテーマの設定

④快適な時を過ごす環境づくり

柳川らしさが存分に発揮される水上交通を活用した二次交通網を整備することで、観光客の周遊を促し、滞在時間の延長に繋げるとともに、柳川らしい景観の維持にも努める。

優先するプロジェクト

- プロジェクト(56)古民家や空家の利活用促進
- プロジェクト(60)柳川らしい二次交通のあり方について検討

⑤柳川の『観光と交流』をささえる

本計画を執行し、目指すべき将来像を実現するには中間支援組織である観光プラットフォーム(仮称)の構築が必要。よって、観光に関わる市民、事業者、関係者を支える組織構築を計画的に進める。

優先するプロジェクト

- プロジェクト(67)観光まちづくり推進委員会(仮称)の設置
- プロジェクト(68)観光プラットフォーム(仮称)構築に向けたロードマップ策定
- プロジェクト(69)観光プラットフォーム(仮称)基本計画書の作成